

「道徳の時間」の授業展開例 塾生から学ぶ

先週、教師養成塾生の安富さんが道徳の授業を行いました。授業実践として3回目の道徳授業です。高い志を持った情熱を感じました。授業について、私を含めて3人の指導者から大変厳しく批評・指導されましたが、昨日、その指導を反映した修正案を練ってきました。すごいです。

このことから学ぶところも多く、以下に要点をまとめてみました。

〔元の指導案の概要〕(オリジナルに脚色を加えています) 【※1】

	学習活動	主な発問	指導上の留意点
導入	1 日常生活を振り返る。	①身の回りにはどんなルールやきまりがありますか。	・学級の掲示物にも目を向け発言を促す。
展開前段	2 「雨のバス停留場」を教師が読み、話し合う。	②よし子は、どんな気持ちでバスを待っていたでしょうか。 ③ほらごらんささい、と言おうとしたよし子の気持ちはどのようなものだったでしょうか。 ④お母さんの顔を見上げたよし子は、バスの中でどんなことを考えたでしょうか。	・場面絵を用いる。 ・バスが見えたときの気持ちでもよい。 ・よし子になりきって考える。
展開後段	3 ルールを守らないとどんなことが起きるかシミュレーションする。	⑤ここに、廊下を走っている男の子がいます。絵を見て、男の子がこの後どうなるのか考えてみましょう。 ⑥自分の日常生活を振り返ってみましょう。	・ルールを守ることの大切さに迫りたい。
終末	4 教師の話を聞く。		・体験を話す。

〔授業実践後の協議の概要〕

- 「ルールやきまりを守らせたい」という教師の恣意的な気持ちから授業を組み立てている。
- これは道徳の授業ではない。前半が国語（読解・心情理解）、後半が生活指導である。
- 後段のシミュレーションが、前段の資料と何ら関係がない。

〔修正案の概要〕【※2】

	学習活動	主な発問	指導上の留意点
導入	1 場面絵を見て、マナーについて考える。	①今日はマナーについて考えます。この絵の場面を見て、みなさんはどのように感じますか。	・通学路や食事時のマナーの場面絵から内心に訴える。
展開	2 「雨のバス停留場」を教師が読み、話し合う。 3 自分の日常生活を振り返る。	②お母さんの顔を見上げたよし子は、バスの中でどんなことを考えたでしょうか。 ③日常生活を振り返って、よし子さんのような思いをしたことはありますか。	・よし子の気持ちを段階的に考えさせる。 ・自分の損得と他人へのマナーとの葛藤感情を受け入れる。
終末	4 教師の話を聞く。		・後悔した体験を話す。

〔道徳の授業のポイント〕

- 【※1】のような道徳の授業が多く見られるのには、訳があります。
 - ① そもそも副読本の解説や指導書の例が【※1】のような指導案が多い。
 - ② 道徳の授業を定着させるために、かつての教科調査官が全国に広めた例が【※1】である。
- その結果、道徳の授業のほとんどの時間を、資料の読解や登場人物の心情を読み取ることに終始している授業が多くあります。→ **授業の成否は、登場人物の心情に自分の心情に重ね合わせたり、自分のこととして受け止めたりしながら考えさせているか否かです。【※2】**

そのことを押さえないで、(前段で) 資料は資料、(後段で) 自分のことは自分のこと、という展開が多いのが実情ではないでしょうか。
- また、児童自身の価値の気づきではなく、指導者側の「道徳的な行為を求める」指導になりがちな点も十分留意する必要があるかと思います。